平成３０年度　栃木市広島平和記念式典中学生派遣報告会（H30.8.24）

「元安川灯ろう流しの体験」　A 班

・灯ろう流しについて　櫻井敦也（岩舟）

灯ろう流しについて説明します。灯ろう流しとはお盆行事の一つで、故人を送り出す渡り火として、魂を慰め、灯ろうやお盆のお供え物を海や川に流すという、日本古来から伝わる伝統行事です。地域によって細かい部分は違いますが、自分の手で灯ろうに名前やメッセージを書き、中に小さなろうそくを灯すのが一般的な灯ろう流しとなっています。広島での灯ろう流しは、原爆で亡くなった方たちの供養のために、遺族らが手作りの灯ろうを流したことがきっかけで始まったそうです。最近では国内外から旅行で来られた方々が「平和への思い」について書くことも増えています。実際に多くの外国人の方が「世界平和」と漢字で灯ろうに書いているのを見ました。また、日本人だけでなく外国の方々も灯ろうに向かって手を合わせ、平和を願っていました。そうな思いが込められた灯ろうは一日で約８，０００個も元安川に流されたそうです。それだけみんな平和を大切に思っているのだなと深く感じました。これで灯ろう流しの説明を終わります。

・体験して心に残ったこと①　黒田将輝（栃木東）

初めて体験した灯ろう流し。昼間の雲一つない晴天とは風景も変わり、対岸には原爆ドームが厳かな雰囲気でライトアップされていました。元安川には幅広い年代の方や外国の方などが大勢いて、皆、亡くなった方への鎮魂の祈りを捧げたり、平和への願いを込めてこの場所を訪れているのだと感じました。

僕の灯ろうは家族一人一人が自分の思いを書きました。世界平和・戦争のない世界を・平和な今を大切に過ごします・過去の過ちを繰り返さない。家族で戦争や平和のことを考え、思い、作った灯ろうだと思います。色とりどりの灯ろうが流れ、皆、自然に手を合わせる様子は、感慨深く幻想的でした。８月６日のこの夜、「過ちは繰り返しません」と改めて心に誓いました。

・体験して心に残ったこと②　近藤紘輝（大平南）

「平和な世界が実現してほしい。」僕の願いを灯ろうに書いて流しました。元安川を、様々な色の灯ろうの明かりがぼんやりと光りながら流れていく様子は、まるで戦争で亡くなった幾多の魂を優しく慰めているかのようでした。昼間行われた式典の時と違い、悲しげで幻想的な雰囲気が印象的でした。

僕の心に残ったのは、日本人だけでなく、たくさんの外国人も灯ろう流しに参加していたことです。平和を願う思いは日本人だけのものでなく、世界の人々に共通するものでもあると実感しました。同時に、唯一の戦争被爆国として、核兵器の恐ろしさ、平和の尊さを世界

に伝え続けていかなければと思いました。
　平和は世界中の人々が協力して築いていくものだと思います。現在の平和に感謝し、元安川に集ったたくさんの思いを後世につなぎ誰もが笑顔で安心して暮らせる未来を創っていきたいと、心から願っています。

・体験して心に残ったこと③　谷部梨里香（皆川）
　私が見た無数に浮かび上がる幻想的な灯ろうの灯り。７３年前の８月６日、今では考えられない光景がそこにあったと思うと、とても胸が苦しくなりました。原爆犠牲者の冥福と平和への祈りを込め、参加したみんなの想いがひとつになる灯ろう流しは、今後も大切にし、全世界へ平和へのメッセージ発信の役割もあることを忘れずにいたいと思います。
　灯ろうの一つ一つには、亡くなられた方への想いが込められているそうです。灯ろう流しは広島で起きた悲劇を二度と繰り返さないように、今を生きる私たちに平和への願いを改めて強くさせてくれました。また、原爆投下を過去のことだとして、風化させてしまうことは絶対にあってはいけないと強く感じました。
　あの日、私たちと同じ中学生が成し遂げられなかった夢や想いを考えると胸が張り裂けそうです。私は、平和な国で生活できることに感謝し、今できることを全力で取り組んでいくことを灯ろうの灯りに誓いました。

・体験して学んだこと①　小森稀乃香（都賀）
　元安川を流れる灯ろうはとてもきれいでした。でも、今から７３年前の８月６日にたくさんの人が水を求め、熱さをしのぐために川に飛び込み、苦しんで亡くなった人がたくさんいたと思うと、とても悲しく、複雑な思いになりました。
　私が灯ろうに願いを込めて書いた言葉は、「世界平和」です。この言葉を流したのは、７３年前のあの日から、もう二度とあのようなことは繰り返さない、全世界が平和で安心して暮らせるようになってほしいと思ったからです。
　灯ろう流しには世界各国からたくさんの人々が参加していました。その一人一人が灯ろうに自分の願いと祈りを込めて川に流している様子がとても印象深かったです。みんなが同じ「平和」を思っていると考えたら心が温かくなるとともに、今自分が「当たり前」に過ごしている日々がとても幸せなんだと思いました。たくさんの人の願いと祈りが世界中の人に届いてほしいです。

・体験して学んだこと②　毛塚望心（藤岡第一）
　追悼や平和への願いを込めて、沢山の人がそれぞれの思いを灯ろうに記しています。
　私は、世界中の人が平和に生きていけるように「世界平和」、皆が人とのつながりを忘れないように「絆」、そして、地面に咲く「あやめ」と、空に咲く「花火」を描きました。
　灯ろう流しには世界各国からも沢山の人が参加していました。その一人一人が灯ろうに

思いを込めて川に流している様子は印象的でした。私たちの、そして７３年前に亡くなった人々の平和への願いが世界中に届いてほしいと思います。

　あれから７３年経った今でも、戦争が起っている国はあります。核兵器の使用は第二次世界大戦でのアメリカによる日本への投下のみですが、戦争によって罪のない命が失われ続けていることには変わりありません。この先も戦争は起こるかもかもしれません。しかし、戦争を起こさないようにするために、私も世界中の人々のために努力をして、戦争のない皆が「平和」を感じられる世界をつくっていきたいです。そのために、自分ができることを為していきます。この８，０００個の願いから世界が変わるように。